

新型コロナウイルス拡大期の景気ウォッチャー調査 (令和2年3月調査)の結果とキーワード分析

茨城県政策企画部統計課 企画分析グループ

茨城県統計課では、様々な統計資料を公表していますが、中でも、「茨城県景気ウォッチャー調査」(以下「本調査」という。)は、経済の第一線で働いている県民の方々300人(県内5地域で各60人)から生の声を聞き、地域別かつ時節に即応した景況感を掴むことができる点で注目されています。調査は、年に4回、3か月ごとに(6月、9月、12月、翌年3月)実施しています。

今回は、新型コロナウイルス拡大期に実施した令和2年3月調査(以下「3月調査」という。)の結果とそのキーワード分析について紹介します。

1 調査結果の概要

景気の「現状判断DI」(調査時点の景況感を示す指標。以下「DI」という。)の直近5年分の推移を見ると、令和2年のDIの動きに特徴があることがわかります(図1)。3月調査では、DI値は大きく低下して20.6となっており、リーマン・ショック期のDI値(平成21年3月には本調査開始以来最低の18.5となりました。)と同程度にまで落ち込んでいます。

令和2年3月頃は、国内で新型コロナウイルスの感染が拡大し始めた頃でした。3月調査の調査客体の景気判断理由のコメントでも、新型コロナ

ウイルスに関するものが多く見られ、新型コロナウイルスがDI値の落ち込みにつながったと推測できます。

そこで、今回は、3月調査における現状判断について注目することとします。

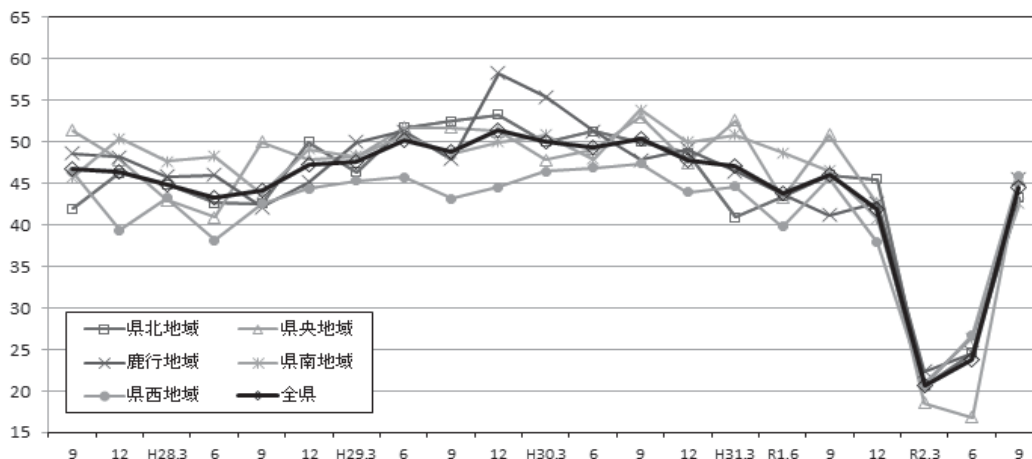
2 調査結果の分析

本調査は、5段階評価(1:良くなっている、2:やや良くなっている、3:変わらない、4:やや悪くなっている、5:悪くなっている)で景況感を数値化するほか、その評価理由のコメント(記述式)で県民の方々の声も把握しており、このコメントが分析の手がかりとなります。分析にあたっては、複数回(10回以上)出現している語について、語と語や語と景気の評価との関連性を見ることで、調査結果の要因について示唆を得ることを試みます。

(1) 語と語の共起関係を見る

一つのコメントの中に、ある語Aと語Bが同時に含まれていることを共起といい、共起の割合で語と語の関連性を見ていきます。ここでは、次の係数を利用します。

【図1】 景気の現状判断DIの推移(地域別)



■統計の窓

$$\text{Jaccard係数} = \frac{n(A \cap B)}{n(A \cup B)}$$

この係数は、語A、Bが両方出現する回数を、語A、Bのどちらか一方、又は両方が出現する回数で割ることで共起の割合を表します。

例えば、語Aの出現回数が100回、語Bの出現回数が160回、語A、Bの両方が出現する回数が10回、語A、Bのどちらか一方、又は両方が出現する回数が250としたときの係数値は0.04になり、値が大きいほど語Aと語Bの関連性が強いと言えます。

語と語の共起関係を視覚的に分かりやすくした図を「共起ネットワーク図」といい、Jaccard係数によりこの図を作成した結果は図2のとおりです。

図2を見ると、「新型コロナウイルス」という語に、「キャンセル」や「減少」といった語が共起しています。「減少」には「客数」も共起していることから、新型コロナウイルスの影響により、キャンセルや客数の減少が起こっていることが読み取れます。

《参考》実際の調査客体のコメント（一部抜粋）

・ゴルフ場（県央地域）

例年3月は来場客数がピークとなるが、新型コロナウイルスの影響から、キャンセル数も多く、前年比で20%以上の減少が予想される。

・旅行代理店（鹿行地域）

新型コロナウイルスの影響により、予約のキャンセルが相次ぎ、客数が減った。

(2) 語と景気評価の共起関係を見る

次に、語と景気の5段階評価の関連性を見ていきます。

例えば、語Aが「4：やや悪くなっている」や「5：悪くなっている」と共起していれば、調査月における景気の評価で、4や5のマイナスな評価をしている人のコメントにAという語が多く見受けられると言うことができ、AがDI値の低下要因になっている可能性が高いです。

共起ネットワーク図を作成した結果は図3のとおりです。四角で囲まれた数字は景気の5段階評価の番号で、この数字が大きいほど調査月の景気

に対する評価が低くなっています。

図3からは、次の2点が考えられます。

- ① 調査月の景気の評価が3から5までの評価において「新型コロナウイルス」が共起しており、特に、4や5の評価で共起の割合が高いことから、新型コロナウイルスがDI値の落ち込みにつながっている。
- ② 出現回数が比較的多かった「キャンセル」が、4や5といった低い評価とのみ共起していることから、「キャンセル」が調査客体の景気の評価をより下向きにさせ、3月調査のDI値の下げ幅を大きくしている。

3 統計の利活用

今回の分析では、新型コロナウイルスが景気の評価に悪影響を及ぼし、特に、キャンセルやそれに伴う客数の減少がDI値の大幅低下を後押ししたという示唆が得られました。

このほかにも、複数の統計を組み合わせた、異なる地域や時期でデータを比較したりすることで新しい状況が見えてくることもあります。県統計課では、本調査以外にも数多くの多様な統計資料を公表しておりますので、ぜひ御活用ください。

※本調査の概要や調査結果、調査客体からのコメントなどは、県ホームページで公表しています。次のURLから参照してください。

・茨城県景気ウォッチャー調査概要

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/chogai.html>

・3月調査の結果の詳細

<https://www.pref.ibaraki.jp/kikaku/tokei/fukyu/tokei/betsu/bukka/watch/202003/index.html>

